

2025年 4月 11日

新宿区長 宛て

団体名 特定非営利活動法人みんなのことば
所在地 東京都新宿区西新宿 7-4-4 武蔵ビル 5F
(フリガナ) トミタ ユウコ
代表者氏名 **代表理事 富田 悠子**

新宿区協働推進基金助成金交付申請書

新宿区協働推進基金条例施行規則第5条の規定により、下記のとおり助成金の交付を申請します。

記

助成金申請額 金 364,000円

申請事業の分野（該当の分野1つだけに○をしてください。なお、活動分野が複数の場合は、主要な分野に○をしてください。）		
保健・医療・福祉	災害救援	情報化社会
社会教育	地域安全	科学技術
まちづくり	人権擁護・平和	経済活動
観光	国際協力	職業能力開発・雇用機会拡充
文化・芸術・スポーツ	男女共同参画	消費者の保護
環境	<input checked="" type="radio"/> 子どもの健全育成	市民活動支援
その他（ ）		

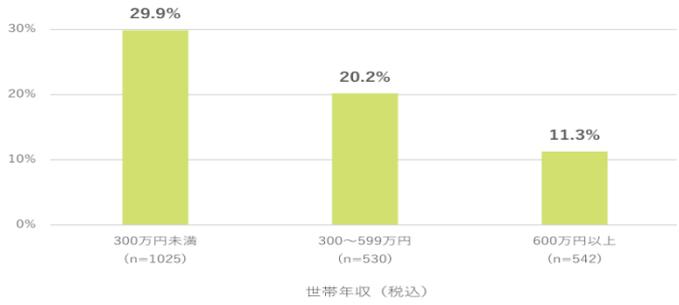
助 成 事業計画書

<p>団体名</p>	<p>NPO法人 みんなのことば</p>
<p>事業名</p>	<p>体験型クラシック音楽プログラム 【親子で楽しむクラシック みんなのコンサート in 新宿】の開催</p>
<p>1 事業目的・事業概要</p>	<p><事業目的> 感性の80%が育つ0～6歳の未就学児にスポットを当て、プロの音楽家による“豊かな感性と表現”を育てる参加型クラシックプログラムの実施により、区が推進する『新宿区教育ビジョン』『新宿区子ども・子育て支援計画（第3期）』『多文化共生のまち』の推進に貢献する。 この計画を継続し、新宿区を“すべての子どもたちが、国籍や家庭環境にかかわらず、小学校に入る前に、ワクワクする本物の体験が当たり前”のコミュニティにする。 ◎聴く・歌う・みんなで演奏する体験を通して、子どもたちの感性を育む ◎子どもが心で感じる姿をご家族にもご覧いただき、家族みんなを笑顔にする ◎文化芸術分野における子どもの体験格差をなくしていく ◎音楽体験を媒介に、多文化共生コミュニティの活性化に貢献する ◎園の先生方や関係者のみなさまに、本物の体験を知っていただく ◎新宿区、NPO 団体、企業 CSR ご担当者のみなさまと地域一体となり、子どもたちの心を育てる“本物の体験”の機会をつくることで、子ども自身のみならず、関わる人々による地域への愛着を育てる</p> <p><事業概要> 8月と11月に、新宿区NPO協働推進センターで親子コンサートを開催する。 対象は、新宿区に住む未就学児親子、および新宿区にお勤めのご家庭の子どもとご家族とする。NPO協働推進センターのある高田馬場エリアを中心としたご家族の参加が期待される。 演奏者は各方面で活躍するプロの音楽家で、司会を担当する歌手と、フルート、ヴァイオリン、ヴィオラ、チェロのカルテット 計5名で編成する。 アイネ・クライネ・ナハトムジークなどクラシックの名曲を 子どもの集中力を考慮した45分間のプログラムにまとめ、“静かに聴く”のではなく、“聴く・歌う・みんなで演奏する”参加型のコンサートをお届けする。 親子ペア1,000円の有償公演とするが、区内企業・事業者のCSR担当やNPO・教育関係者などを招待し、今後の継続拡大に向けたネットワーク構築につなげる。</p> <p>②コンサートの準備期間 区内幼稚園、保育園、こども園（全114園）のうち、NPO協働推進センター近隣の園を中心とした施設へのご案内、および近隣のご家庭へのチラシ配布と、ホームページ・Instagramの活用により、コンサートの告知と集客をすすめる。 告知活動を通じて、区内上場188社を中心とする企業・団体のCSR担当者や、幼稚園の園長先生などの教育関係者、区内NPO関係者との接点拡大を図る。</p> <p>③コンサート終了後のフォロー 参加者アンケートや来場者とのコンタクトや、準備段階で確立した関係者とのリレーションを活かして、『新宿区子ども・子育て支援計画（第3期）』に沿った来年度の育成活動計画をたてる。</p>

② 地域課題・社会的課題

- ① 新宿区における虐待相談の受付件数は年々増加しており、令和5年度の新規受付件数は、年間1,500件弱と平成26年度からの10年間で約8倍となっている（出典：新宿区子ども子育て支援計画）。
虐待を未然に防止するためには、子どもの感性を育てていく活動と並行して、親が子どもの表現する感動を共有し、感動することで成長していく姿に触れ、子どもへの愛情を再確認する機会が必要である。
- ② 新宿区は外国人人口が都内で一番高く（130カ国、41,851人（区民の12.2%））、多様性を認めあう多文化共生社会の実現を目指している。
外国人住民に対するアンケートで、多文化共生のまちづくり推進のために区が進めるべき最重点テーマは、「日本人との交流会やイベント」（46.5%）との回答であった。
新宿区は、外国人と日本人のコミュニティをつなぐ交流機会が最も重要な地域である。（出典：令和5年度 新宿区多文化共生実態調査）
- ③ 感性は6歳までにその80%以上が形成される。豊かな感性を育むためには、未就学児の心を動かす質の高い本物の体験が大切である。
しかしながら、多くのライブイベントは未就学児の入場を制限しており、入場制限のないイベントでも静かにできない子どもをコンサートホールに連れていくことは、保護者にも大きな心理的負担となる。
また、文化庁の『学校における文化芸術鑑賞・体験推進事業』予算55.8億円の事業対象は小学校以上で、未就学児は国家予算による支援になっていない。
- ④ 家庭の経済状況や環境によって、子どもの体験格差が生じている。公益財団法人チャンス・フォー・チルドレン発行『子どもの「体験格差」実態調査最終報告書2023』によると、年収300万未満の家庭では30%、年収600万以上の家庭でも1割の子どもは、学校以外の体験がない。

学校外の体験がない子どもの割合（直近1年間）



（出典：チャンス・フォー・チルドレン 子どもの「体験格差」実態調査最終報告書2023）

更に文化芸術活動にフォーカスすると、年収300万未満の家庭で82%、年収600万以上の家庭でも68%の子どもに体験の機会がない状況にある。

各種「文化芸術活動」に参加している子どもの割合（複数選択）

世帯年収区分	音楽	アート・造形・工作	演劇・ミュージカル	外国文化（語学・英会話を除く）	習字・書道	将棋・囲碁	茶道・華道	料理	科学・プログラミング	その他	体験なし
300万円未満 (n=1025)	7.5%	1.2%	0.5%	0.5%	6.8%	0.4%	0.4%	0.8%	1.2%	1.2%	82.4%
300～599万円 (n=530)	13.0%	1.1%	0.0%	0.2%	9.4%	0.2%	0.2%	0.6%	1.7%	0.8%	76.2%
600万円以上 (n=542)	17.5%	3.0%	0.4%	0.9%	10.1%	0.9%	0.7%	0.9%	4.2%	0.7%	68.6%

（出典：チャンス・フォー・チルドレン 子どもの「体験格差」実態調査最終報告書2023）

本報告書では、低所得家庭の保護者自身が学童期に学校以外の体験が少なく、幼少期の体験が感性を育み、その後の学歴や社会的地位への影響することを示唆している。

さらに外国人比率の高い新宿区の場合には、保護者の文化的バックボーンが多様性を考慮する必要があり、保護者の経済的・経験的・文化的要因による選択が、子どもの感性の育成に大きな影響を及ぼすことを考慮する必要がある。

<p>2 課題解決のための取組</p>	<p style="text-align: center;">「楽器を手にする子供は、武器を手にししない」</p> <p>これは、コロンビアのウリベ大統領（当時）が国の治安を改善するための政策に掲げたスローガンです。 次代を担う子どもたちの心と感性を育てる本物の体験は、やわらかで優しい多文化共生社会の実現に貢献できると考えます。</p> <p>① 新宿区では、子どもの虐待を未然に防止することを目的に、子ども総合センターと4か所の子ども家庭支援センターを設置し、保護者が安定した精神状態で育児に臨める支援施策を展開している。 当団体は更に音楽の力で保護者のストレスを和らげ、保護者と子どもが感動を共有することで、虐待の抑止に貢献している。 これを裏付けるとある都内保育園でのエピソードをご紹介します。 夕方の公演依頼を受け、子どもたちを前に演奏していると、保護者がお迎えにやってくる。園長先生が「一緒に聴いて行って」と仕事で疲れた保護者を会場に誘い込むと、モーツァルトの旋律に保護者の表情が和み、その音楽に合わせて踊っている子どもの笑顔に和み、いつしか子どもと一緒に手拍子を始める。 その姿を見た園長先生の「これが虐待の抑止力になるのです」との言葉は、この問題への対応の難しさと、心を動かす本物の体験の可能性を物語っている。</p> <p>② 音楽を通して、国籍の違いによる言葉の壁を越えた多文化共生コミュニケーション基盤の醸成に寄与する。 床にマットを敷いたフラットなスペースを用意し、アーティストにできる限り近く、同じ目線の高さで、演奏を体験できる工夫をする。 アーティストは、ただ演奏を静かに聞かせるのではなく、子どもたちが笑ったり、歌ったり、踊ったり、五感を使って感じたことを周りの人と共有しようとする反応を引き出す。 このような子どもの全身を使った感情の表現が、初対面の子ども同士・大人同士の柔らかいコミュニケーションを引き出す。 また指揮者体験や楽器体験、アーティストとの交流の場を通して、心の垣根を超えた参加者同士の一体感を生み出す。 心を動かす体験を五感で表現する子どもたちと、その空気を共有したおとなたちの一体感が、言葉の壁や初対面の緊張を克服し、多文化共生社会のコミュニケーションを活性化する。</p> <p>③ 今回の助成により、芸術体験予算が確保できない幼稚園、保育園、子ども園、の子どもたち、家庭の経済的・環境的要因で文化芸術に触れる機会に恵まれなかった子どもたちに本物の体験を届け、区内の子どもたちの文化芸術活動の体験格差の是正に貢献する。</p> <p>④ 保護者・教育関係者・事業者各位に、コンサートと参加する子どもたちの反応を体験いただき、その効果と可能性を訴求し、今後の協力支援体制の基盤をつくる。 今回は有償公演となるが、事業者や保護者からの賛同と資金協力を得て、将来的には無償で、新宿区のすべての子どもたちにコンサートを届けていきたい。</p>
<p>1 先駆性・専門性</p>	<p>デジタルエンタテインメントが普及した今日、音楽や映像はスマホやAV機器を通し、受け止める側の反応に関係なく一方的に発信されるバーチャル体験として大量に発信・消費されている。 しかし、この手軽なバーチャル体験は、アーティストと聴衆が同じ空間と時間を共にする一体感、肌で感じる空気の振動、アーティストの息遣いやアイコンタクトが生む本物の体験とは一線を画す。</p>  <p>私たちは、司会を担当する歌手と、フルート・ヴァイオリン・ヴィオラ・チェロの四重奏で、子どもの集中力を考慮した45分間のコンサートを届けている。 アーティストと参加する子どもたちの距離をできるだけ近くセッティングすることで、肌で感じるヴァイオリンの弦の響き、チェロのエンドピンを通して床から伝わるチェロ</p>

の振動、演奏者同士の息遣いなど、本物の体験を届けることにこだわっている。



ただ演奏を聴かせるだけでは子どもの集中力は維持できない。発達に合わせたプログラムの構成はもちろんのこと、相手が純粋な子どもだからこそ、高い演奏のクオリティを維持しつつ、司会の巧みな話術と、子ども一人ひとりとのアイコンタクトや全身を使ったアーティストのパフォーマンスにより、終始子どもの注意力を引きつけることができる。

クラシックコンサートでは当たり前となっている“静かに聴きましょう”というルールはなく、泣いたり、笑ったり、いっしょに歌ったり、子どもが五感で感じて表現する反応を引き出し、そのすべてを受け入れる。



私たちは、感性の80%が育つ0～6歳までの子どもに、ワクワクする本物の体験を届けることを目標に2009年にNPO法人を立ち上げ、これまで1300ヶ所以上、12万人以上の子どもたちにコンサートを届け、先生方や保護者の皆様から満足度98.9%の評価を得ている。

以下に、コンサートをお届けした園長先生と保護者からいただいたコメントを紹介する。

<白百合保育園（東京都江戸川区）園長 渡部裕人先生>

- ・これは子どもたちだけでなく職員も学びや経験になると思って、続けていきたいと感じました。

<ゆたか幼稚園（埼玉県三郷市）親子コンサート 参加ご家族>

- ・子供たちが歌や手拍子で参加したり、演奏者の方の問いかけに元気よく答えたりする姿は、とても微笑ましく園全体が一つになったような一体感を感じました。
- ・子供達のいきいきとした表情や、楽しい、おもしろいという感情がたくさん伝わってきたので、私もとても嬉しかったです。
- ・テレビなどでは体験できない迫力ある演奏、歌声でさすがプロだなと感じました。やはり体感、体験、経験することはとても大事だなと改めて思いました。
- ・大好きなお友達と一緒に全身で音楽を楽しんでいる様子が見られて感激しました。帰宅してからも「ブラボー♪だったね！」とたくさん親子で会話もできて嬉しかったです。
- ・母である私も、日々慌ただしく生活している中で、日常のすべてを忘れ（笑）、ひたすら癒された時間になりました
- ・日々色々な事に追われ過ぎていると音楽を聞くことすらないのですが、クラシックなんてなおさらなのですが、初めの音から胸にひびいてなぜか涙があふれそうになりました。すごく感動しました



演奏者はいずれも音楽大学を卒業して各方面で活躍するプロのアーティストで、当法人のオーディションと独自研修を経て、演奏技術と適性を確認している。子どもに本物の体験を届けるプロとして、反応を受け止めながら表情や全身を使ったパフォーマンスで、最後まで子どもの集中力を切らさず、心を動かすスキルを身に着けた専門家である。



I イベント（会議）の開催予定等

1. イベント（会議）名：
親子で楽しむクラシック みんなのコンサート in 新宿
 2. 活動内容：
 - ・歌手とカルテットによる親子コンサートの実施
 - ・指揮者体験、楽器体験、アーティストとの交流
 - ・告知案内を通して、区民、教育関係者、区内事業者との関わりを持ち、実施後のフォローによりその効果を共有し、ご家族の経済的負担なく、継続的に開催できる基盤をつくる
 3. 実施期間、回数：
 - ・夏公演と冬公演の2回開催
 - ・夏は8月23日(土)、冬については11月か2月で調整
 4. 実施場所：NPO協働推進センター 多目的室
 5. 周知（募集）方法、期間：
 - ・区内幼稚園(23園)、保育園(66園)、こども園(18園)への案内チラシ郵送、個別訪問フォロー
 - ・NPO協働推進センター近隣家庭へのポスティング
 - ・区内上場企業188社への郵送、訪問案内
 - ・団体ホームページ、インスタによる案内
 - ・区内施設、掲示板による案内
- ★上記施策を開催2か月前から実施

⑤ 具体的な活動内容

(イベントが複数ある場合は、こちらのページを複写して作成してください)

	<p>6. 対象者・定員数： ★集客定員150名 ・区内在住の親子、区内在勤の親子：150名</p> <p>7. 人員・スタッフ数 団体構成員（2）名 講師等（5）名 アルバイト（6）名 ボランティア（ ）名</p> <p>8. 安全対策等： ・会場のNPO協働推進センターとの綿密な事前打ち合わせ ・受付でのアナウンスの徹底 ・来場者動線の明示と安全な誘導の徹底 ・子どもの動きを想定した安全対策の徹底 ・授乳室やおむつ替えスペースの確保</p>
--	---

⑥ 期待される効果	ア 区民や地域社会への成果・効果
	<ul style="list-style-type: none"> ・音楽は世界共通のことば。本物の体験は、区が目指す国籍や慣習にとらわれない多文化共生社会の実現に寄与する。 ・区内の子どもたちの文化芸術体験の格差が是正され、感性豊かな次代の担い手の育成に貢献する。 ・保護者、教育関係者、事業者の知見を広げ、子どもの感性を育てるための区内関係者の協力体制を確立する。
⑦ 今後の展望	イ 現状や課題に対する成果・効果
	<ul style="list-style-type: none"> ・国家予算による支援が届かない未就学児に文化芸術体験の機会を設けることで、子どもの感性を育てる。 ・子どもと保護者が体験を共有することで、家族共通の話題や思い出が生まれ、家庭の雰囲気をやさしく健やかにすることで、家庭内暴力を抑止する。 <p>すべての子どもたちに本物の体験を！ “新宿区の子どもたちは、国籍や環境にかかわらず、小学校に入る前に本物の体験を通して豊かな感性を備えている“という状況を当たり前のものとし、心豊かでやさしい多文化共生社会の担い手に育っていく環境をつくっていききたい。</p>

⑧ 過去にこの助成を受けた実績	助成年度 () 事業名 ()
	助成年度 () 事業名 ()
	助成年度 () 事業名 ()
⑨ この事業に対する他の助成の有無 (申請中のものを含む)	<input type="checkbox"/> 有 <input checked="" type="checkbox"/> 無
	<p>有 の 場 合 は 、 助 成 名 称 (団 体) 及 び 助 成 額</p> <p>助 成 名 (団 体 名) :</p> <p>助 成 額 : 円</p> <p>※新宿区の他の助成制度からの助成が決定した場合には、本助成金は受けられません。新宿区以外の団体からの助成金がある場合には、その金額を差し引いた額が本助成額になります。本助成金への申請後に、同事業で新宿区外の補助金へ申請される際は、必ずご相談ください。</p>

収支予算書

費 目		予 算 額		内 訳	
事業費	①使用料及び賃借料	11,600	円	演奏会場 NPO協働推進センター 5,800円×2回=11,600円 (多目的室および控室として102会議)	
	②消耗品及び印刷費	11,803	円	コンサートちらし印刷: 5,000部 = 10,978円 アンケート印刷: 5.5円×75組×2回 = 825円	
	③委託費	34,274	円	コンサートちらしデザイン: 11,137円×2回 = 22,274円 チケット販売サイト手数料: 75,000円×8%×2回 = 12,000円	
	④講師謝礼	220,000	円	アーティスト謝金: 20,000円×5人×2回 = 200,000円 (手取り額) 予算額には源泉税・消費税を含む 交通費2000円×5名×2回 = 20,000円	
	⑤その他謝礼	0	円		
	⑥交通費	32,000	円	当日スタッフ交通費: 2,000×8名×2回 = 32,000	
	⑦保険料	8,700	円	150人×29円×2回 = 8,700円	
	⑧その他諸経費	59,108	円	運搬費: 9,647円×4回 = 38,588円 郵送費: 施設向け郵送: 114園×180円 = 20,520円	
	⑨感染症等対策経費	9,893	円	※上限額2万円以内 (20,000)	
				消毒スプレー: 2,290円×2本×2回 = 9,160円 税込9,893円	
⑩人件費	129,126	円	※下記「事業費」の25%以内 (129,126)		
			当日運営スタッフ 1,200円×8名×5h×2回=96,000円 前日準備作業 1,200円×4名×2h×2回=19,200円 制作・広報関連 1,200円×2名×10h×2回 = 48,000円		
事業費 (①から⑩の合計)		516,504	円		
⑪ファンドレイジングに関する経費	25,826	円	※事業費の5%以内 (25,826) 企業向けDM印刷&郵送: 156.5円×188通 = 29,422 (税別)		
⑫助成対象経費 (事業費+⑪)	542,330	円			
⑬助成対象外経費		円			
事業総額		542,330	円		

		内 容		予 算 額		積 算 根 拠 (内 訳)	
収 入 区 分	㊦	事業収入 (参加料、資料代等)	150,000	円	親子ペア1,000円×75組×2回=150,000円		
	㊧	寄附金		円			
	㊨	補助金等収入		円			
	㊩	協働推進基金助成金	364,000	円	「㊧～㊨、㊪～㊫の合計」の2/3と「㊩」の合計 ※千円未満切り捨て		
	㊰	団体負担金	28,330	円			
		収入総額	542,330	円			

黄色の箇所は自動計算になっています
 ピンク色の箇所は金額の確認が必要な欄です